

平成 23 年 6 月

= 発行 =

秋田県生涯学習センター

〒010-0955 秋田市山王中島町 1-1

TEL : 018-865-1171

FAX : 018-824-1799

E-mail : sgcen002@mail2.pref.akita.jp

編集担当：社会教育アドバイザー

「あきたこまち」の苗もすくすくと育ち、6月の風が柔らかな穂先をなでて通ります。水を張った田んぼでカエルが鳴きはじめ、今が秋田の一番いい季節かもしれません。

秋田市の大森山動物園の人気者のアムールトラとアミメキリンの死亡のニュースが新聞に掲載されていました。命の大切さと感動を与えてくれた2頭に感謝し冥福を祈りたいと思います。

大森山動物園、男鹿水族館、秋田県立博物館、農業科学館など、県内には様々な社会教育施設があります。親子で、祖父母と孫で、友達同士で出かけてみませんか。そこには年齢を問わず感動、安らぎ、学び、希望が得られる魅力の空間があります。県では“「ニッポンの笑顔」秋田から!”というキャンペーンを行っています。「秋田の元気、我が家から!」の意気込みで、出かけてみませんか。

生涯学習・社会教育 はじめの一步!

～地域の教育力向上を目指して～



生涯学習・社会教育関係者基礎講座
平成23年6月2日(木)～3日(金)



【講義・演習】理想の社会教育施設像を描く～施設大カイゼン計画～

秋田大学教育文化学部 准教授 原 義彦 氏

講義の後、原先生の指導の下、グループ毎に社会教育施設の「大カイゼン計画」の立案演習を行いました。各グループは対象公民館を想定し、その公民館の3年後の大改善の目標を明確にしなが、SWOT分析を通して「公民館大カイゼン計画」を作成しました。

SWOT分析のSは、「ねらい達成に向けた**施設の強み**」、Wは、「ねらい達成に向けた**施設の弱み**」、Oは、「ねらい達成に関わる外部からのチャンス(順風要因)」、Tは、「ねらい達成に関わる外部からの阻害要因(危機、逆風要因)」です。この4点をS×O、W×O、S×T、W×Tと組み合わせて、公民館の特色や地域の課題等から、各公民館の活性化に向けた「大カイゼン」の具体的な取り組み事例をひねり出し、模造紙に仕上げて発表し合いました。キラリとしたアイデアが続出でした。作成した「大カイゼン案」を勤務先で実践しようと、そのまま持ち帰った参加者もありました。



私たちが現状維持に甘んじることなく、「施設の大カイゼン」に取り組みたいものです。一番必要なことは、施設に関わる職員の真剣な意欲と気概であると、参加者は感じ取ったようでした。

夏瘦せや母驚かす喉仏
空蟬や戊申戦士の碑に
箸置きは竹細工なり夏料理

武藤 素魚



「緊急事態 その時どうした その時どうする」 第1回放課後子どもプラン指導者研修会(中央地区) 平成23年6月8日(水)

「子どもは宝、子どもの命を守るのは大人の役目！」

3月11日の東日本大震災では、美しい三陸のリアス式海岸が、一変にして地獄絵に変わりました。そして、子どもたちの尊い命がたくさん奪われました。「未曾有」「想定外」という言葉が飛び交いました。今までの防災意識、防災対策では対応できないことを日本中の人々が自覚しました。

平成23年度、第1回放課後子どもプラン指導者研修会では、「緊急事態 その時どうした その時どうする」をテーマにして意見交換が行われました。参加者は、東日本大震災の発生時またはその直後どうしたかを紹介し合い、その体験から課題をつかみました。そして、「その時どうする」について話し合いました。放課後の子どもを預かる放課後児童クラブ、放課後子ども教室の厚生員兼安全管理員、指導員、学習アドバイザー等の参加者はみな、子どもの命を預かることの責任の重大さを痛感していました。

各市町村や放課後児童クラブ、放課後子ども教室では、子どもの実態、発達段階、地域の特性や事情等に即した安全マニュアルを作成しなければならないことと、避難訓練の必要性を確認し合いました。

大津波が発生したときどこに避難すべきか、日ごろから考えて訓練を重ねなければいざというときに生かされないと思います。各家庭でも、実際に避難訓練をしてみたいはいかがでしょうか。

くまますす少子化が進む秋田県>
秋田県情報(平成22年1月～12月の人口動態より)
出生数： 6688人 (前年7013人から-325人)
出生率： 全国47位で、16年連続最下位
婚姻率： 全国47位で、11年連続最下位



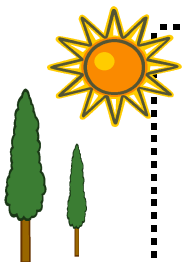
体の中から、元気Up！

美の国れんけいカレッジ 健康ゼミ
講師 スポーツ科学センター 工藤 強志 氏



6月21日(火)、県生涯学習センターで開催された「元気 Up！健康ゼミ」に参加しました。指導者の声に合わせて、無理なくゆっくり体をほぐし、水入りペットボトルの重さを利用して筋トレをしました。使った筋肉を軽くたたいたりもみほぐしたりして休めてあげることが、ストレッチのコツのようです。「ストレッチは毎日、筋トレは1日置きぐらいが効果的」ということも知りました。終了後、体全体がほぐれて楽になりました。

ストレッチや筋トレは病気予防やけが防止にもつながります。体の元気は心の元気に通じます。体の元気は、優しさや思いやりの行動にも結びついていくのではないのでしょうか。ペットボトルに水を入れて、家族で職場で、体を動かしてみませんか。



「スギの子e-mail」のご案内

家庭教育や子育てについての悩みごと、心配ごとにメールで相談に応じます。気軽にメールしてみてください。

(e-mail) suginoko@mail2.pref.akita.jp